

学校だより

東泉丘

令和3年(2021年)11月号
全児童数546人(10/4現在)
豊中市立 東泉丘 小学校
校長 河上 洋介

全国学力・学習状況調査等の結果について

5月27日(木)に実施した全国学力学習状況調査(6年)及び府のすくすくテスト(5・6年)の本校の結果について、お知らせします。5、6年生の子どもたちには、個人結果票や問題用紙を9月末に返却しています。

まず、6年生が取り組んだ全国学力・学習状況調査の概況についてです。平均正答率では、国語、算数いずれも、府、全国を上回っていました。正答数分布でも、国語、算数いずれもばらつきが少なく、全体的に正答数の多い方にかたまっています。また、問題形式別の正答率を見ると、国語、算数いずれも記述式の問題で府や全国を上回っていました。本校の児童は記述式の問題形式に強みがあると考えられます。すくすくテストの児童アンケートでは、「自分の意見や、先生、友達の話を書き留めていますか」という設問で、「あてはまる」と回答した児童が、府、市に比べて上回っていました。このことから、普段から「書く」学習活動を積極的に行っていることが結果として表れたものと考えられます。

国語の問題別で見ると、「書くこと」にかかる記述式の問題で正答率が府や全国を下回っているものがありました。この問題では「意見」と「理由」を書くことが求められていましたが、本校の誤答傾向を見ると、意見を書くことはできていたけれども、理由を書けていない誤答が多かったです。理由になる内容を書き留めても、「なぜなら」「理由は、」「～からです。」や「～ので、」といった理由を表す言葉を使って書くことができていなかったのかもしれないと考えています。普段のノート指導等で気を付ける必要があります。修飾と被修飾の関係や主語と述語の関係について問う問題の誤答傾向を見ると、誤答として多かったものは、いずれも直前、または直後の言葉を選んだものでした。「主語」と「述語」の関係、「修飾」と「被修飾」の関係は、間に別の言葉をはさんで離れた場所にある言葉と言葉が関係することを理解していなかったのかもしれない。文の中の一つ一つの言葉の意味は分かっているけれども、言葉と言葉の関わりについて、正確に読み取ることに課題があると考えられます。「主語」等の学習用語の意味を十分に理解することも大切です。

算数を問題の区分で見ると、図形にかかる設問では、府や全国に比べて正答率が高くなっています。変化と関係にかかる設問では、逆に、府や全国よりも正答率が下回っていました。変化と関係にかかる設問で、正答率が府や全国を大きく下回っていた問題の誤答傾向を見ると、計算の式を答える問題なのに、式以外を書いた児童が多くいました。単純に、変化と関係にかかる設問が苦手、ということではなく、問題文を正確に読み取り、何を求められているのかを理解することができていなかったと考えられます。

次に、5年生が取り組んだすくすくテストの概況についてです。平均正答率では、国語、算数、理科いずれも、府、全国を上回っていました。国語の問題別で見たときに、正答率が最も低くなっていたのは、主語と述語の関係について問うものでした。主語と述語の関係については、全国学力・学習状況調査でも課題が見られたので、5年だけではなく、本校の課

題として捉えてよいと考えています。算数の問題別で見ると、図形の面積にかかわる問題で課題が見られました。全国・学力学習状況調査では、図形がよくできていたので、6年生と逆の結果になっています。

すくすくテストのわくわく問題は、5年生も6年生も同じ問題に取り組みました。わくわく問題は、教科横断型の問題です。様々な資料から読み取ったことをもとに自分の考えを表現する内容になっています。例えば、ぶどうの問題では、「ぶどうを冷やすと甘くなる理由について、資料2、資料3から分かることをもとに書く」問題がありました。この問題の誤答傾向を見ると、「果糖は冷やすと甘くなるから。」といった資料3から分かることのみを書いている誤答が多く見られました。本校だけではなく府全体の課題ですが、問題文を正確に読み、何をどのように答えればいいのかを理解することに課題があると考えられます。これは、全国学力・学習状況調査でも同様です。

最後に、児童アンケートの結果から、2点紹介します。いじめにかかる項目で「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「あなたの学級は授業中間違ってても笑われない」の2項目で、「あてはまる」と回答した児童が府等に比べて少なかったです。また、コンピュータ等のICT機器にかかわる項目について、「ICTを、意見をまとめたり調べたりするのに使っている」「授業でインターネットを使って必要な情報を調べることはどれくらいありますか」の2項目で、ほぼ毎日と回答した児童が府等に比べて少なく、月1回程度と回答した児童が多かったです。

まとめ

- ・本校の児童は、記述式の問題に強みがあります。今後も、ノート指導等を通して、書く活動を充実させ、長所である書く力を伸ばしていきたいと考えます。
- ・その際、理由を表す「～ので、」伝聞を表す「～そうです。」といった、言葉の使い方について指導し、より正確に表現することができるようにすることが大切です。
- ・文章全体の構成をおおまかにつかむことは得意ですが、逆に文を細かく正しく読むことに課題があります。具体的には、主語と述語、修飾と被修飾といった言葉と言葉の関わりを正しく読むことが課題です。
- ・問題文を正確に読み取り、何をどのように答えればいいのかを理解することにも課題があります。

この結果を本校の授業改善の手がかりのひとつとしながら、本校の目指す学校像「ひとりひとりが輝く楽しい学校」の実現に向け、子どもたちを認め励ましなが、教育活動を進めます。また、いじめを許さない子どもを育てることや、ICTの活用についても、これまでの取組みを継続し充実させていきたいと考えています。

<連絡やお願い>

- ・今年度の卒業式の日程が決まりました。3月18日（金）です。ご予約ください。
- ・本校給食従事員の〇〇さんが先日退職し、後任に〇〇さんが着任しています。

本校の目指す学校像「ひとりひとりが輝く楽しい学校」